

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970500516
法人名	社会福祉法人 寿ノ家
事業所名	寿ノ家 グループホーム
所在地	〒 406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場2031 電話番号 055-261-0021

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年11月 1日	評価確定日	平成20年1月29日

【情報提供票より】平成19年10月15日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	8人	常勤	8人	非常勤	0人	常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2 階建ての 1 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 平成19年10月15日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲州リハビリテーション病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年11月26日

ぶどう園が点在し、富士山が望める住宅地に2階建てのホームがある。居室は1・2階に分かれている。広々とした居間・調度品・装飾が和風で統一され、居心地の良い共用空間となっている。ホームは同一法人による病院・特別養護老人ホーム他、関連施設が併設され、グループ内の情報交換は密であり、終末期ケアの方針も確認され手順も検討中である。利用者の尊厳を保持し、その人らしく暮らせるよう、常に振り返り、確認・点検をしながら質の向上に努め、ISOを取得し、独自の理念を作り上げている。開設以来、利用者・職員の変動は少なく、互いの信用関係が保たれ、利用者の表情も穏やかである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 注意の必要な物品の保管について、特に包丁等、刃物の管理検討については、全職員でミーティングにて改善策を話し合い、夜間は布を巻き目立たない場所にて管理し、安全の確保に努めている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全ての職員が、ビデオやミーティング等で意義を理解している。評価は、項目毎に全員の意見を聞き、話し合いながらまとめ作成した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームでの生活の様子・取り組んでいる内容・外部評価の結果等を報告し、本人や家族の意見・要望を伝え、ホームの課題等と合わせ協議してもらい、勉強会・民生委員の会議に参加したり、自治会から活動や行事についての案内もある。行政の理解・協力が得られていると共に地域とのつながりも深まりつつある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会時に暮らしぶりや健康状態を伝え、同時に意見や要望も聞くことに努めている。また毎年9月末に家族アンケートも実施している。出された意見・要望は、運営推進会議やカンファレンス・ミーティングで確認し、実践につなげている。また法人グループから意見を聞いたり、オンブスマン制度も設置され、質の向上に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入している・散歩時・買い物時には、挨拶や会話を交わしている。利用者の状況把握をしながら、祭りや行事には参加するが、活動への協力には限りがある。今後については、災害時の協力への働きかけと併せ、ホームでの暮らしぶりを伝え、一層の理解・協力を得ながら、活動への場を広げ、交流を深めていく考えを持ち、前向きである。

2. 調査報告書

事業所名： 寿の家グループホーム

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の尊厳を守り、その人らしく暮らせるよう、環境を整え、サービスの向上に努めている。また、ISOを取得し、事業所独自の理念をつくりあげている。しかし、地域の中で暮らし続けることの支援については、特に明記されていない。	○	地域の中で、その人らしく暮らすという視点を基本的に加え、実践につなげてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関の目につきやすい場所に掲示すると共に、全職員が名刺サイズに理念を明記したカードをネームカードに入れており、またミーティングの場でも確認し合い、日々、実践につなげている。	○	地域の中で、その人らしく暮らすという視点を加えた基本理念を共有し、更なるサービスの向上に努めることを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入・地区の祭り等に参加している。近くの店への買い物や散歩時に挨拶や会話はする。利用者の意向を重視し、安心して参加できる地域活動について、運営推進会議等で協議検討中である。	○	利用者が地域住民の一人として理解を得ながら、地域活動に参加・協力の場が広がるよう、運営推進会議の充実と取り組みに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員がビデオやミーティング等で意義を理解している。項目毎に管理者を中心に話し合いながら、自己評価をまとめた。評価結果についても全員が確認し、ミーティングにおいて改善策を検討し、具体的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議開催前に、全家族に議題を送り、事前に目を通していただき会議に臨んでいただいている。また、出席できない家族からは、事前に意見を聞き会議の場で取り上げている。会議では、ホームの様子や取り組み報告、家族の意見・要望、また地域との連携における課題について取り上げ協議・検討している。また、会議の欠席者には、議事録を送付している。なお、会議での協議・検討結果については、ホーム内のミーティングで確認し実践に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と管内の介護保険事業者等で組織する連絡会の勉強会に参加したり、民生委員の勉強会に講師として出向き、認知症への関わり方について講義し、参加者と情報交換等を行っている。また、市の担当者は運営推進会議の委員でもあり、ホームの質の向上に対し理解があり、取り組みに協力的である。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時を利用し、個々の暮らしぶり・健康状態を伝える。また電話を用いる事もある。法人発行の「寿だより」も配布している。金銭の出納は、記録にて明確にし、コピーを家族に渡してサインを得る。遠方で面会の少ない家族には、手紙を添えて郵送にて報告する。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に気楽に言ってもらえるよう伝えると共に、毎年9月末に家族へのアンケートを実施している。出された意見や要望は、ケアカンファレンス・ミーティング等で確認し、改善につなげている。その他、法人全体からの意見や苦情も受け付けている。オンブスマン制度も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所以来、ほとんど動きはないが、法人内での人事異動や新採用の場合は、本人と家族に説明し、引継ぎ期間を十分にとったり、職員の配置を多めにし、利用者へのダメージを防ぐよう努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人グループでの研修会をはじめ、事業所にも新人訓練や勉強会を定期的実施している。外部の研修会にも交替で参加し、内容については報告し、全員に周知している。また人事考課制度にて段階的に目標設定をし、実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人代表は同業者との交流に理解があり、合同の勉強会に参加して、積極的に情報や意見交換をし、互いの連携を深めている。また、新設のグループホームの研修や実習も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を開始する前には、本人と家族に来所してもらい、利用者や職員と顔馴染みになりながら、ホーム内の様子を見てもらい、安心と納得をしていただき、サービスの利用開始につながるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員が、利用者は人生の先輩という考えを共有し、手打ちのほうとう作りや草花の手入れ等、得意分野で活躍してもらう場面作りの支援に努め、また、暦を参考に季節の行事の意味や内容を聞き、日常的に取り入れ、楽しみながら支え合いの関係が保たれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で思いや意向を把握し、ケアカンファレンスにおいて対応の統一を図っている。またセンター式アセスメントにて本人の視点で検討を実施している。思いや意向に限りはないという考えを持ち、より把握に努める姿勢が伺える。	○	利用者本位の視点を職員間で共有し、困難の場合は、家族や関係者からの情報も得ながら、希望や意向の把握に努め、更なるサービスの向上に期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の希望・要望と併せ、センター方式アセスメントによる課題を基にし、医師とも相談したうえで介護計画を作成している。家族の同意も得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直しを基本としているが毎月末のカンファレンスの際、サービス適正チェック表により見直しを実施する。また緊急を要する場合はミニカンファレンスにて検討する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自宅や近くの親戚に、お茶を飲みに行ったり、特別な希望や要望を受け、買物等と一緒に行く、また、美容院・通院の送迎支援等、その都度、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に応じた受診について、主治医・訪問看護等と連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。また緊急時には、協力病院の往診が受けられる体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアカンファレンスにて話し合い、全職員が方針を共有している。看取り介護について指針を策定し、協力病院・訪問看護の理解を得ており、介護の手順についても検討中である。現在、本人と家族の希望により1名に支援を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が利用者の8大権利(個別ケア・質の高いサービス・尊厳の保持・プライバシーの確保・他)について教育訓練を受けており、日常的にミーティングや勉強会で確認している。終わりのない内容であるため、振り返り、確認し、対応を実施していく考えである。	○	日常的に振り返り、確認を継続し、プライバシーの確保の徹底に期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、利用者や職員の自己紹介の際、その日の希望や要望を聞き、買い物や散歩等の時間を設けている。また、食事時間や起床等、一人ひとりの生活のリズムを把握し、その人らしい生活の場となるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には、利用者の希望が取り入れられており、週2回・夕食は当日相談して決定、また誕生日には昼食が好みのメニューとなる。利用者も職員と共に準備から片付けまで行っている。職員も一緒に食事をし、和やかな雰囲気づくりに努めている様子が伺える。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴は可能で夜間の入浴者もあり、一人ひとりその日の希望に合わせた支援をしている。また、入浴介助も支援の統一票にて、介助方法を職員間で共有し実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、洗濯物の整理・草花の手入れ等、得意分野で力を発揮している。また、地域の祭りへの参加・外食・旅芝居の見物等、意向を確認し支援している。今後も更に気付きや意向の把握を深め、実感してもらえる支援を目指している。	○	一人ひとりの気持ちや意向を確実に把握し、実感しながら喜びや自信につながる支援がなされるよう期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎朝、外出希望を確認し、買い物・散歩に行っている。また、利用者のその日の状態に配慮しながら、近隣の祭りや行事等に参加する。その他、初詣・お花見・ぶどう狩り等、肌で季節を感じてもらえるよう、機会を得ながら支援に努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関同様フェンスの鍵も開錠し、出入りは自由な環境である。職員は常時、見守り支援を徹底し、玄関前に置いてある長椅子での「日向ぼっこ」も利用者の気分を尊重し、職員も一緒につき合う。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	グループホームとして定期総合防災訓練を利用者も参加する中で年2回実施している。また、総合訓練以外にも、防災マニュアルにもとづいたホーム内の自主訓練を行っている。しかし、地域と連携した防災対策については確立されていない	○	万が一の災害時は職員だけで避難誘導するには限界もある場合もあるので、運営推進会議で検討するなどし、地域住民や消防署、警察等と連携を図り、ホームの災害時対策における地域住民等との協力・支援体制を築いて欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人の管理栄養士のチェックを受けており、栄養のバランスは取れている。一人ひとりの食事の量や水分等については、同じテーブルで一緒に食事をする職員が把握し、記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が植えられている玄関は、訪問しやすい。広々とした空間の居間にテレビ・大きなソファ・食堂・台所には、テーブルが3ヶ所に置かれ、調度品・装飾品も和風で落ち着いた雰囲気となっている。2階にもくつろげる空間が設けられ、利用者はどこにいても居心地よく過ごせる工夫が行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ付きの居間は、家族の協力を得て、本人の希望の品々・カーペット・テレビ・冷蔵庫・馴染みの家具等が持ち込まれ、家族の写真や時計・カレンダー・装飾品等で、その人らしい居室づくりがされ、安心して落ちついて過ごせるよう工夫がされている。		